

事業トップメッセージ

ポリマーズ&コンパウンズ(PC)/MMA

さらなるMMAの競争力向上とPC事業の規模拡大を図り、グループの成長に貢献していきます

執行役エグゼクティブバイスプレジデント
ポリマーズ&コンパウンズ/MMA所管

佐々木 等

迅速な意思決定で市場での競争力を発揮

2021年12月に三菱ケミカルグループの新経営方針「Forging the future 未来を拓く」が発表されて以来、私たち新経営陣は当社グループのあるべき組織、機能・役割について議論を重ねてきました。私たちを取り巻く環境が激変する中、世界の全てのステークホルダーの期待に応えていくために、「One Company, One Team」カルチャーを持つスリムでフラットな組織に変えてきたことで、意思決定の迅速化だけでなく、プロセスの客観性や透明性も高まるなどグローバルスタンダードに着実に近付いてきたと感じています。

事業面では、足元のエネルギー価格高騰が世界中の資源価格の高騰を招いています。これらサプライチェーン全体が直面しているリスクを事業環境の前提として、持続可能な成長に向けて、PC/MMAビジネスの競争優位性を発揮していくことが最重要課題と考えています。



製造プロセスの絶えざる最適化

MMA事業は、主要3製法を世界で唯一保有し、30%以上の世界シェアを誇る当社グループのコア事業の一つです。この競争優位性を維持し、安定した収益を確保していくためには、常に製造プロセスの最適化を行うことが必須であり、短期的には、世界11カ所に展開する生産拠点において、主原料の調達環境に応じた効率的な生産体制の強化を図っていきます。現在は米国でコスト競争力の高い「新エチレン法(アルファ法)」による新プラント建設を検討しており、実現すればリーディングカンパニーとしての地位を確固たるものにできると考えています。中長期的には、プロセス・ミックスを省エネルギー型に移行するなどして競争優位性を確保しながら、新規触媒開発による収益率向上を図ることで成長し続けていきます。

カーボンニュートラルに向けた取り組みにおいても、PMMAのケミカルリサイクルプラントの実証を進めています。パイロット

設備での実証試験が完了し、現在は2024年度中の稼働に向けたプラント建設の準備を進めています。

特徴ある製品の事業規模を拡大

PC事業は、物質の軽量化・高機能化に加え、無塗装化を可能にする材料や生分解性材料、食品消費期限を飛躍的に改善させる材料など、サーキュラーエコノミーの実現に貢献するさまざまな特性を持つ製品を保有しています。当社グループの幅広い要素技術や蓄積された応用技術をグローバルに一元管理し、成長市場・領域に展開していくことで効果的な事業規模拡大をめざしていきます。この成長モデルを実践すべく、2022年7月、エチレン・ビニルアルコール共重合樹脂「ソアノール」について、2025年7月からの稼働を視野に、英国での生産能力増強を決定しました。高いガスバリア特性を持つ食品包装材として、食品の風味や品質を長持ちさせることができ、食品廃棄物の削減に貢献することが可能な「ソアノール」の需要は世界的に拡大しており、今後も堅調な伸びが見込まれます。

当社グループは、これからも市場や顧客の持続可能性に寄与する製品や代替不可能な特性を持つ製品を開発し、グローバルな製造、販売体制を活用することで世界の成長市場とともに事業規模を拡大していきます。